

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	
Title(English)	URBAN FOOD INSECURITY AND ITS SOCIO-ECONOMIC DETERMINANTS AND EFFECT ON SUBJECTIVE HAPPINESS: CASE STUDY IN INDONESIA
著者(和文)	BaharVicka Kharisma Yulidar
Author(English)	Vicka Kharisma
出典(和文)	学位:博士(学術), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第12474号, 授与年月日:2023年3月26日, 学位の種別:課程博士, 審査員:阿部 直也,村山 武彦,山口 しのぶ,坂野 達郎,錦澤 滋雄,野原 佳代子
Citation(English)	Degree:Doctor (Academic), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第12474号, Conferred date:2023/3/26, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	審査の要旨
Type(English)	Exam Summary

(博士課程)

論文審査の要旨及び審査員

報告番号	甲第	号	学位申請者氏名	Bahar Vicka Kharisma Yulidar		
論文審査 審査員		氏名	職名		氏名	職名
	主査	阿部 直也	教授		錦澤 滋雄	准教授
	審査員	山口 しのぶ	教授	審査員	坂野 達郎	外部審査員 (名誉教授)
		村山 武彦	教授			
		野原 佳代子	教授			

論文審査の要旨 (2000 字程度)

本論文は「URBAN FOOD INSECURITY AND ITS SOCIO-ECONOMIC DETERMINANTS AND EFFECT ON SUBJECTIVE HAPPINESS: CASE STUDY IN INDONESIA」と題し、全6章により構成され、英文で執筆されている。

第一章では、本論文が着目しているインドネシアでは経済成長と人口増加により、都市部の低所得世帯が増加している状況に着目し、都市部の低所得世帯の家計支出の多くの割合が食料に費やされ、かつ、市場からの購入に大きく依存している現状を概観している。このような状況は、都市部の世帯が農村部の世帯と比較して、食料不安の観点において脆弱性の高い状況にあることを示唆し、インドネシアを含む多くの国の政策立案者に適切に認識されていない課題を指摘している。その上で、本論文の目的と有意性を提示している。本論文の主な目的は3つあり、第一に、経験に基づく食料不安の計測枠組みについて、インドネシアの三大都市（ジャカルタ、スラバヤ、バンドン）に適用する修正版を提案・検証すること、第二に都市における食料不安の水準を規定する社会経済的要因を明らかにすること、そして第三に、世帯の移住履歴の有無を考慮した上で、食料不安の人々の主観的幸福感への影響を分析することとしている。

第二章では、インドネシアにおける食料政策や食料不安を軽減するための政府の施策について概観している。近年のインドネシア政府の対応は、農村部における問題のみに焦点を当てているため、人口集中が進む都市部における食料不安に対する政策的取り組みは不十分であり、都市化が進む現代においてますます対応が必要であるにもかかわらず、都市部固有の特徴反映した計測手法の開発が遅れていることを課題として指摘している。また、持続可能な開発目標（SDGs）においても重要視されているように、食料不安の軽減は、多くの国において開発目標の主要な焦点であるにもかかわらず、都市部の低所得世帯にとって、食料不安と厚生水準（well-being）はどのような関係にあるのか十分な知見が存在しない課題を指摘している。

第三章では、本論文が適用した経験に基づく食料不安計測枠組みについて提示されている。まず、既往研究による食料不安の計測枠組みの開発経緯、主な計測事例について概観したのち、本論文が着目した分析対象都市であるジャカルタ、スラバヤ、バンドンの地理および社会経済的特徴を説明している。その上で、経験に基づく食料不安の計測に関する既往知見を踏まえ、インドネシアの三大都市部の特

徴に沿う枠組みを提案し、アンケート調査結果に基づく食料不安の計測とその水準の閾値の設定の根拠と妥当性が提示されている。

第四章では、第三章で提示した経験に基づく食料不安の計測結果とその水準を決める境界値の設定を踏まえ、どのような社会経済的要因が規定要因となるのか、離散選択モデルによる分析結果が提示されている。その結果、回答者の世帯収入、雇用状況、都市への移住履歴の有無、住宅所有の有無、扶養家族数が統計的に有意な関連が示唆されることを明らかにしている。特に、都市に居住する低所得世帯は農村に居住する低所得世帯と比較して、人的繋がりに頼ることは難しく、金銭に頼る傾向にあることから、都市部における食料不安を緩和・解消するためには、貧困対策、収入機会の創出、児童に対する栄養価の高い食料の提供など、多面的な政策の実施が必要となることを提案している。

第五章では、第三章および第四章を踏まえて、食料不安の水準が都市住民の幸福度(well-being)にどのように影響を及ぼしているのか順序ロジットモデルにより分析し、都市における低所得世帯が直面する食料不安は、食料の課題のみならず、人々の幸福度にも関連があることを定量的に提示している。特に、世帯の都市への移住履歴の有無は、直接的に主観的幸福度に影響を及ぼすのではなく、食料不安を通じて、都市部での世帯の主観的幸福に影響を与える可能性を明らかにしている。

第六章においては、本論の結論および今後の課題を提示している。

以上を要するに、本論文は都市化が世界各地で進行している現代において、特に開発途上国の都市に居住する低所得世帯が直面する食料不安に着目し、インドネシアの三大都市における経験に基づく食料不安の計測を実証的に行い、その食料不安の水準を示す境界値を示すとともに、食料不安の水準を規定する社会経済的要因を明らかにしている。特に都市の形成に不可分な現象となっている移住履歴の有無が、食料不安の規定要因となっており、さらにその食料不安の水準が、都市に居住する人々の幸福度へ関連があることを明らかにしている。これらの結果は、都市部に居住する世帯の食料不安改善のための方策に一定の示唆を提供しており、学術上、政策上、貢献するところが大きい。よって、本論文は博士(学術)の学位論文として十分価値があるものと認められる。

注意：「論文審査の要旨及び審査員」は、東工大リサーチポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。